便潜血検査を精度管理調査項目に追加要望

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

■ 日　時　　平成26年２月６日（木）　午後１時40分～午後３時10分
■ 場　所　　鳥取県健康会館　鳥取市戎町
■ 出席者　　23人
魚谷健対協会長、八島部会長、岡田委員長
秋藤・遠藤・尾﨑・清水・瀬川・田中・
冨田・長井・西土井・細川・山本寛子・米川各委員
オブザーバー：藤木鳥取市保健師、友定倉吉市保健師、松本岩美町保健師
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：下田課長補佐、山根係長、羽原主事
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

・平成24年度は受診率28.5％、要精検率8.6％、精検受診率は76.8％、がん発見率0.27％、陽性反応適中度4.2％であった。要精検率が平成23年度より0.3ポイント増加した。国のプロセス指標は要精検率許容値7.0％以下、精密検査受診率目標値90％以上、がん発見率許容値0.13％以上、陽性反応適中度許容値1.9％以上としているが、要精検率は許容値を上回り、精密検査受診率は90％に程遠いが、がん発見率、陽性反応適中度についてはいずれもいい成績であり、精度が保たれていると思われる。

・平成24年度に発見された大腸がん又は大腸がん疑い153例について確定調査を行った結果、確定大腸癌142例で、そのうち早期がんは80例、早期癌率は56.3％であった。

・鳥取県健康対策協議会は、平成25年10月に市町村が実施する大腸がん検診の一次検診医療機関（259医療機関）を対象に、免疫便潜血検査キット及びカットオフ値等の実態調査を行った。その結果、251医療機関から回答があり、回答率は96.9％であった。

便潜血検査の判定を自院で行っているところは、32医療機関（東部８、中部15、西部９）で12.7％であった。検査機関に委託しているところは、219医療機関で87.2％であった。

一般的な測定法で実施されており、現時点では検査キット、カットオフ値の統一は考えていないが、今後、便潜血検査の精度管理について考えていく必要がある。

便潜血検査の精度管理は非常に重要であることから、「鳥取県医師会臨床検査精度管理委員会」が、年に１回実施する医療機関、検査機関等の精度管理調査項目の中に便潜血検査についても追加して頂くようお願いすることとなった。

また、鳥取県健康対策協議会は、今回のアンケート調査結果は、協力頂いた医療機

関等には報告させて頂き、会報にも掲載したいと考えている。

挨拶（要旨）

〈魚谷会長〉

皆様には、日頃から健対協事業にご尽力頂き、深謝致します。

本日は、これまでの活動状況や委員会での懸案事項等について、活発なご議論をお願いする。そして、来年度以降の大腸がん検診事業がより一層充実していくよう願っている。

〈八島部会長〉

本日は、平成24年度大腸がん検診最終実績報告、平成25年度実績見込み等の報告がある。また、岡田委員長より、本県の要精検率が高いことから、この度、医療機関等に実態調査を行った結果が報告されることとなっている。そのデータを元に協議をお願いする。鳥取県の大腸がん検診の受診率は年々増加傾向であるが、要精検率が高い傾向にあることや、精検受診率が中々向上しないという課題がある。

本日の報告事項、協議事項を通してご検討頂き、今後の方向性について、ご意見を頂きたい。

〈岡田委員長〉

検診の精度管理が問題となっており、平成24年度検診から一次検査の採便方法を２日法に変更を行った。本日の議題に上がっているが、次の精度管理として、免疫便潜血検査キット及びカットオフ値について検討していきたいと考える。

報告事項

１．平成24年度大腸がん検診実績最終報告並びに25年度実績見込み・26年度計画について

〈県健康政策課調べ〉：

山根県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

〔平成24年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、受診者数は54,362人、受診率は28.5％で、平成23年度に比べ、受診者数が2,170人、受診率が1.1ポイント増加した。平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向にある。

受診率は東部30.9％、中部26.8％、西部27.2％であった。また、受診率の目標50％達成に近い町と低いところでは約30％の開きがあった。

このうち要精検者数は4,669人、要精検率8.6％で、平成23年度より0.3ポイント増である。精検受診者は3,588人、精検受診率76.8％で例年並みであった。精検受診率は上昇傾向であるが、許容値70％以下の市町村がある。

精密検査の結果、大腸がんは149人で、平成23年度に比べ18人増加、大腸がん疑いは４人であった。がん発見率（がん／受診者数）は0.27％、陽性反応適中度（がん／精検受診者数）は4.2％であった。

要精検率、がん発見率、陽性反応適中度ともに、平成23年度に比べ高かった。

要精検率は東部8.2％、中部7.8％、西部9.4％、がん発見率は東部0.298％、中部0.180％、西部0.295％、陽性反応適中度は東部4.5％、中部3.2％、西部4.2％で、平成23年度に比べ、西部の要精検率が高くなっている。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団7.2％、中国労働衛生協会5.2％、病院9.6％、診療所9.5％で、例年と同様に医療機関検診の要精検率が高い。

また、がん発見率は集団検診0.203％、医療機関検診0.318％で、医療機関検診のがん発見率が高い。

国のプロセス指標は要精検率許容値7.0％以下、精密検査受診率目標値90％以上、がん発見率許容値0.13％以上、陽性反応適中度許容値1.9％以上としているが、要精検率は許容値を上回り、精密検

査受診率は90％に程遠いが、がん発見率、陽性反応適中度についてはいずれもいい成績であり、精度が保たれていると思われる。

精検受診率の向上対策として、市町村はどのような取組をしているのかという質問が委員よりあった。オブザーバー参加の鳥取市保健師からは、年に数回、電話、通知、アンケート等で受診勧奨を行っているとのことだった。

委員からは、精検受診率が向上しない原因が受診勧奨の問題なのか、あるいは精検医療機関が少ないので受けられないという問題なのか原因を究明し、対策を検討していくことが重要と考えるという意見もあった。県健康政策課は精検受診率が特に低い市町村に対しては原因等について問合せをし、次回、報告をすることとした。

平成24年度の夏部会において、国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がHPで公開している項目（検診受診歴（初回・非初回）別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率）について本部会で報告することとされた。

平成23年度の上記項目の集計結果を見たところ、検診受診歴別の要精検率・がん発見率・陽性反応適中度については、非初回よりも初回が高い傾向などがわかった。

〔平成25年度実績見込み・平成26年度計画〕

平成25年度実績見込みは、対象者数190,556人に対し、受診者数は55,738人、受診率29.3％で平成24年度より約1,600人増の見込みである。また、平成26年度実施計画は、受診者数58,513人、受診率30.7％を計画している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：冨田委員

〔平成24年度検診実績〕

地域検診は20,317人が受診し、そのうち要精検者数は1,438人、要精検率7.08％、精検受診者数は1,080人、精検受診率75.1％であった。精密検査の結果、大腸がんは43人発見され、大腸がん発見率0.21％、陽性反応適中度3.98％であった。また、がん疑い１人、ポリープ457人、ポリープ発見率2.25％であった。

全受診者の中で、初回受診者（初回受診＋６年以上前受診）は、受診者数2,160人、全受診者の10.6％であった。要精検者数は193人、要精検率8.94％、精検受診者数は138人、精検受診率71.5％であった。精密検査の結果、大腸がんは13人発見され、大腸がん発見率0.60％、陽性反応適中度9.42％であった。昨年度より初回受診者の要精検率8.94％と高く、発見がんも多く見つかっている。

職域検診は17,963人が受診し、そのうち要精検者数は1,000人、要精検率5.57％、精検受診者数は461人、精検受診率46.1％であった。精密検査の結果、大腸がんは14人発見され、大腸がん発見率0.08％、陽性反応適中度3.04％であった。また、ポリープ202人、ポリープ発見率1.12％であった。

また、初回受診者は、受診者数1,905人、全受診者の10.6％であった。要精検者数は103人、要精検率5.41％、精検受診者数は42人、精検受診率40.8％であった。精密検査の結果、大腸がんは１人発見され、大腸がん発見率0.05％、陽性反応適中度2.38％であった。

職域検診は受診者の80％は30～59歳で占めている。精検受診率が依然として低率であるので、受診勧奨が重要である。

一次検査の採便方法が１日２個法から２日法に変更したこともあり、要精検率が平成23年度より0.5ポイント増加したと思われる。発見がんも多く見つかっている。

〔平成25年度実績見込み（平成25年12月31日現在）〕

地域検診の受診者数は19,382人、職域検診は14,428人の見込みである。

要精検率は、地域検診8.13％、職域検診5.03％である。地域検診の要精検率はかなり高くなると

思われる。

２．平成24年度発見大腸がん患者確定調査結果について：田中委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い153例について確定調査を行った結果、確定癌142例（地域検診39例、施設検診103例）、非がん３例、本人の希望により治療せず１例、未受診２例、治療予定１例、調査中２例であった。そのうち早期がんは80例、早期癌率は56.3％であった。現在調査中のものがあるので、最終集計は、後日取りまとめる。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

（１）性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。

40歳代からがんが５例発見されている。

（２）部位では「R」と「S」が59.9％、肉眼分類では「２」が37.3％であった。早期癌80例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が55.0％であった。昨年度に比べ深達度m癌が少なくなり、進行がすすんだものが多かった。

（３）大きさは、10㎜以下が39例（27.5％）、11～20㎜が38例（26.8％）、21～50㎜が52例（36.6％）、51㎜以上が12例（8.6％）であった。

（４）Dukes分類は「Ａ」が68.3％、組織型分類は「Well」が54.9％、「Mod」が38.7％であった。

（５）治療方法は外科手術が36例（25.4％）、内視鏡下手術44例（31.0％）、内視鏡治療は62例（43.7％）であった。昨年度より手術症例が少し多かった。

（６）逐年検診発見進行大腸がんは23例（東部10例、中部１例、西部12例）であった。

23例中、前年度の結果が要精検だったのが４件あり、ポリープが１件、精検未受診３件であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

３．各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について（１月末集計）

「注腸X線検査医療機関登録」は平成25年３月31日をもって廃止したが、国の指針においても全結腸内視鏡検査を行うことが困難な場合、S状結腸内視鏡検査と注腸X線検査の併用による精密検査を実施することとされており、各地区大腸がん注腸読影委員会は継続設置している。

東部、中部の注腸読影実績はなかった。

〈西部－遠藤委員〉

20回の読影会を行い、60症例を読影した。その結果、異常なし11件、要内視鏡検査５件、その他44件であった。その他の内訳は、大腸がん疑い１例、ポリープ34件、憩室５例、経過観察２例、痔１例、大腸炎１例であった。

症例は年々少なくなると思われるが、各地区大腸がん注腸読影委員会は来年度も継続設置する。

読影会に内視鏡検査の写真もレントゲンフィルムと一緒に提出した方がいいのかという質問が委員よりあったが、レントゲンフィルムだけの提出で良いとのことだった。

協議事項

１．市町村が実施する大腸がん検診免疫便潜血検査キット及びカットオフ値等の実態調査結果について

本県の大腸がん検診は従来より要精検率が高いことから、カットオフ値の設定について、これまで議論がなされていたところである。平成25年８月24日に開催された本委員会において協議した結果、検診の質の評価については要精検率だけではなく、がん発見率、陽性反応適中度などの数値を含め、総合的に判断する必要があるとしながらも、まずは、県内医療機関の検査キット及びカットオフ値について実態把握を行うことが、今後の対策検討に有効であることから、健対協が、調査を行い、集計結果を次回の会議で報告することとなっていた。

鳥取県健康対策協議会は、平成25年10月に市町村が実施する大腸がん検診の一次検診医療機関（259医療機関）を対象に、免疫便潜血検査キット及びカットオフ値等の実態調査を行った。その結果、251医療機関から回答があり、回答率は96.9％であった。

アンケート結果について、岡田委員長より以下の報告があった。

（１）便潜血検査の判定を自院で行っているところは、32医療機関（東部８、中部15、西部９）で12.7％であった。

（２）検査機関に委託しているところは、219医療機関で87.2％であった。

委託先はファルコバイオシステム、BML、福山臨床検査センター、エフエムエルサービス、保健科学研究所であった。

（３）各検査機関の測定法等

○集団検診実施機関（鳥取県保健事業団、中国労働衛生協会）

測定法：便潜血測定装置

試薬メーカ名：栄研化学

測定原理：ラテックス凝集反応

カットオフ値は130と140ng／ml

○受託検査機関（ファルコバイオシステム、BML、福山臨床検査センター、エフエムエルサービス、保健科学研究所）

測定法：便潜血測定装置

試薬メーカ名：栄研化学と和光純薬

測定原理：ラテックス凝集反応と金コロイド比色法

カットオフ値は大半が100ng／mlであったが、160ng／mlのところもあった。

○自院で判定を行っている32施設

測定法：便潜血測定装置７施設、用手法が25施設

試薬メーカ：栄研化学21施設、和光純薬６施設、アリーアメディカル２施設、アルフレッサファーマ２施設、ミズホメディー１施設

測定原理：イムノクロマト21施設、金コロイド比色法10施設、ラテックス凝集反応１施設

カットオフ値：便潜血測定装置７施設は80ng／ml：１施設、100ng／ml：４施設、130ng／ml：１施設、150ng／ml：１施設

用手法25施設のうち50ng／mlは15施設であった。

（用手法50ng／mlは便潜血測定装置の100ng／ml相当である。）

以上の調査結果から、一般的な測定法で実施されているが、検査方法等が施設ごとに異なることがわかった。現時点では検査キット、カットオフ値の統一は考えていないが、現在、国立がん研究センター（国の研究班）による医療機関用チェックリスト策定に向けたモデル事業への参画を検討しており、今後、国立がん研究センターとも連携しながら精度向上に努めたいと考えている。大腸がん検診においては便潜血検査の精度管理をきっちりと押さえておく必要があると考えると岡田委員長より話があった。

便潜血検査の精度管理方法の協議の中で、「鳥取県医師会臨床検査精度管理委員会」においては、年に１回、医療機関、検査機関等の血液検査、心電図検査等について、精度管理調査を行っている。精度管理調査項目の中に便潜血検査についても追加して頂くよう要望してはどうか。精度管理調査には費用がかかるが、精度管理のためには大変重要であることを理解して頂き、受託検査機関、自院で判定を行っている医療機関は精度管理調査を受けて頂くようお願いしてはどうかという意見があった。

「鳥取県医師会臨床検査精度管理委員会」が２月27日に開催されるので、便潜血検査についても追加して頂くことが出来るか検討して頂くようお願いすることとなった。

なお、鳥取県健康対策協議会としては、今回のアンケート調査結果は、協力頂いた医療機関等に対しては報告させて頂き、会報にも掲載したいと考えている。

２．鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録更新について

25年度中に、現行の「鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録実施要綱」及び届出書に基づいて、更新並びに新規登録手続きを行う。

３．平成26年度大腸がん検診従事者講習会について

平成26年８月頃に東部で行うこととなった。

４．その他

・岡田委員より、本委員会は年に２回開催しているが、来年度からは協議内容により、委員会の開催回数は流動的に検討したいと考えているので、ご理解願いたいと話があった。

・各がん検診の受診率は年々増加傾向にあるが、目標の50％以上達成に向け健対協としても取り組むこととし、来年度は、かかりつけ医から「がん検診受けましたか？」と一声かけていただくためのがん検診受診勧奨リーフレットを健対協として作成することを計画している。